

2020年3月11日

新型コロナウイルス感染症による影響と対策について

1. 鉄道輸送実績

- ・ 1 / 2 7 中国政府が団体旅行中止命令
- ・ 2 / 2 8 北海道が緊急事態宣言
- ・ 3 / 9 中国、韓国からの入国制限

	区 間	1/6 ~12	1/13 ~19	1/20 ~26	1/27 ~2/2	1月 平均	2/3 ~9	2/10 ~16	2/17 ~23	2/24 ~3/1	2月 平均	3/2 ~3/8	3月 平均
北海道 新幹線	新函館北斗 ~新青森	105.3%	98.2%	100.7%	90.6%	98.1%	82.7%	85.0%	90.3%	74.2%	84.4%	25.0%	25.7%
特急列車	東室蘭~苫小牧 札幌~岩見沢 南千歳~トマム	93.3%	98.1%	95.5%	86.9%	94.2%	80.2%	73.2%	76.9%	56.6%	73.2%	30.1%	30.2%
快速 エアポート	札幌 ~新千歳空港	97.2%	104.8%	100.2%	96.4%	99.3%	91.8%	89.6%	90.1%	76.1%	88.0%	47.7%	48.0%

※週間実績及び3月平均は対前年同曜日比較、1、2月平均実績は対前年同日比較

2. 減収予想(取扱収入)

(単位: 百万円)

		1月 実績	2月 実績	2/27-3/4 実績	3月 想定	年度累計
近距離	増減	+180	△104	△214	△913	+589
	対前年	109.5%	94.6%	54.8%	54.8%	102.7%
都市間	増減	△134	△863	△474	△2,184	△2,346
	対前年	96.4%	75.9%	33.1%	33.1%	94.0%
定期 その他	増減	+50	+60	△16	△159	+484
	対前年	104.6%	108.3%	91.6%	84.8%	103.8%
合計		+96	△907	△704	△3,256	△1,273

新型コロナウイルス 影響額	1/24-31	2月	3月	計
	1.4億円	11.9億円	33.7億円	47億円

※3月には通学定期減少分を含む

3. 在来線特急列車の減便等

新型コロナウイルス感染症の影響により、旅行需要が大幅に減少しております。このような現状から、3月23日（月）～4月23日（木）まで特急列車の編成両数見直しおよび減便を実施いたします。

ご利用のお客様にはご不便をおかけいたしますが、何卒ご理解いただきますようお願い申し上げます。

○ 増結の取りやめ、編成両数の見直し

- ・ お客様のご利用が大幅に減少しているため、3／2以降の特急列車の増結を取りやめ
- ・ 3／23から「北斗」、「おおぞら」の自由席2両を1両減車し1両に
- ・ 4／6から「北斗」の指定席を1両減車し、「北斗」の指定席4両が3両に

○ 在来線特急列車の減便

- ・ ご利用状況を踏まえ、特急列車の減便を4／23まで実施（状況によって期間を変更）

第1段階 3／23から札幌～旭川間、札幌～東室蘭間で実施

札幌～旭川間※1 通常54本 → 44本（▲10本）

（※1 カムイ・ライラック・宗谷・オホーツクの運転本数合計）

上り カムイ8号、カムイ12号、カムイ28号、
ライラック38号（3/28, 29のみライラック旭山動物園号）、
カムイ42号

下り カムイ9号、ライラック21号、カムイ29号、
ライラック39号、カムイ45号

（単位：人／日）

	通常輸送力	輸送実績				減便後	
		前年	効率	本年	効率	輸送力	効率
札幌～岩見沢	16,568	8,395	51%	2,844	17%	13,618	21%

（輸送実績は2／29～3／8の一日平均（前年度は同曜日比較））

札幌～東室蘭間※2 通常36本 → 30本（▲6本）

（※2 北斗・すずらんの運転本数合計）

上り すずらん4号、すずらん6号、すずらん8号

下り すずらん7号、すずらん9号、すずらん11号

（単位：人／日）

	通常輸送力	輸送実績				減便後	
		前年	効率	本年	効率	輸送力	効率
東室蘭～苫小牧	11,490	5,567	48%	1,655	14%	8,508	19%

（輸送実績は2／29～3／8の一日平均（前年度は同曜日比較））

第2段階 4/6から札幌～函館間、札幌～帯広間で実施

札幌～函館間^{※3} 通常24本 → 20本 (▲4本)

(※3 北斗のみの運転本数合計)

上り 北斗10号、北斗24号

下り 北斗1号、北斗15号

(単位：人/日)

	通常輸送力	輸送実績				減便後	
		前年	効率	本年	効率	輸送力	効率
東室蘭～苫小牧	11,490	5,567	48%	1,655	14%	6,260	26%

(輸送実績は2/29～3/8の一日平均(前年度は同曜日比較))

札幌～帯広間^{※4} 通常22本 → 18本 (▲4本)

(※4 おおぞら・とかちの運転本数合計)

上り とかち2号、とかち10号

下り とかち1号、とかち9号

(単位：人/日)

	通常輸送力	輸送実績				減便後	
		前年	効率	本年	効率	輸送力	効率
南千歳～トマム	5,194	3,804	73%	908	17%	3,834	24%

(輸送実績は2/29～3/8の一日平均(前年度は同曜日比較))

4. 感染拡大防止対策

① お客様対応

○ 主要駅等の窓口に消毒液を配置

- ・ 消毒液を主要駅等(計17箇所)の窓口に順次配置 (1/29～)
- ・ 配置箇所の出改札カウンター等を一日数回除菌シートでふき取り (2/21～)

○ 接客社員(駅社員・車掌)のマスク着用(1/17～)

感染症対策として接客社員のマスク着用を順次強化

【対象】 駅社員 Kitacaエリア内の有人駅、主な観光駅、新幹線3駅、各支社拠点駅(計52箇所)

車掌全員

○ 駅頭・車内での感染症拡大予防の呼びかけ

- ・ 国土交通省からの依頼を受け、感染症感染拡大予防のチラシ掲出 (2/10～)
- ・ 新幹線車内での咳エチケット注意喚起テロップ掲出(2/20～)
- ・ 駅・車内放送で「テレワーク」「時差通勤」「咳エチケット」などの呼び掛け(2/26～)

- 列車内の換気実施（3/5～）
 - ・ 在来線は車掌が乗務する換気制御が可能な列車において、具体的なタイミングを定めて換気を実施
- 列車内客室の消毒実施（3/7～）
 - ・ 通常、列車内客室のひじ掛け、吊革、握り棒、半自動スイッチ等は水拭き清掃を実施しているが、3/7から札幌圏快速・普通列車は、消毒液（次亜塩素酸水）を使ったふき取りに変更
 - ・ 特急列車および北海道新幹線は3月中に順次拡大
- 駅構内喫煙室の一時使用停止（3/5～）
 - ・ 厚生労働省からの「屋内でお互いの距離が十分に確保できない状況で一定時間を過ごすとき」の注意喚起等を受け、駅構内喫煙室の一時使用停止を実施（計12駅）
- 乗車券類の払い戻し（2/27～）
 - ・ 感染拡大防止を理由に旅行を取りやめた場合、乗車券類の無手数料払い戻しを実施
 - ・ 休校を事由とした通学定期券の払戻の最終使用日を2/26で統一

② 社員・グループ会社の取り組み

- 点呼・朝礼時の健康状態確認を全ての箇所で実施（2/18～）
 - ・ 非接触式体温計を各箇所に配置（2/27～）
- 出張、イベント、会議、懇親会等の取りやめ・縮小（2/27～）
- 時差出勤の実施（2/27～）
 - ・ 本社ビル等に勤務する社員の始業時刻について、業務上・生活設計上支障ない場合は9時から10時に1時間繰下げ
- 学校休業に伴う対応（2/28～）
 - ・ 社員が子の学校休業に対応するため、休暇・出勤時間等の柔軟な対応
- JR北海道の入社式、新入社員研修
 - ・ 入社式は中止
 - ・ 新入社員研修は4/1から2週間程度は自宅待機とし、その後集合研修期間を短縮して実施